

令和元年度いばらきネットモニター「食の安全」についてのアンケート

1 調査の概要

(1) 調査形態

調査期間：令和年8月1日(木)～13日(火)まで

調査方法：インターネット(アンケート専用フォームへの入力)による回答

いばらきネットモニター数：528名

回収率46.2%(回収数244名)

回答者の属性(百分率表示は、小数点以下第二位を四捨五入しているため、個々の比率の合計は100%にならない場合がある)

		人数(人)	比率(%)
全体		244	100.0
性別	男性	130	53.3
	女性	114	46.7
地域別	県北	28	11.5
	県央	91	37.3
	鹿行	16	6.6
	県南	79	32.4
	県西	30	12.3
年齢別	10歳代	2	0.8
	20歳代	10	4.1
	30歳代	35	14.3
	40歳代	51	20.9
	50歳代	67	27.5
	60歳代	41	16.8
	70歳以上	38	15.6
職業別	自営業	17	7.0
	会社員	79	32.4
	団体職員	9	3.7
	公務員	5	2.0
	主婦・主夫	61	25.0
	学生	4	1.6
	無職	51	20.9
	その他	18	7.4

(2) 調査目的

このアンケートは、食の安全・安心を揺るがす事件等の発生が後を絶たない中、より実効性のある施策の展開が必要なため、県民が抱く食の安全に対する感想及び県に期待する対応策を把握し、今後の県の施策への参考とするために実施するものです。

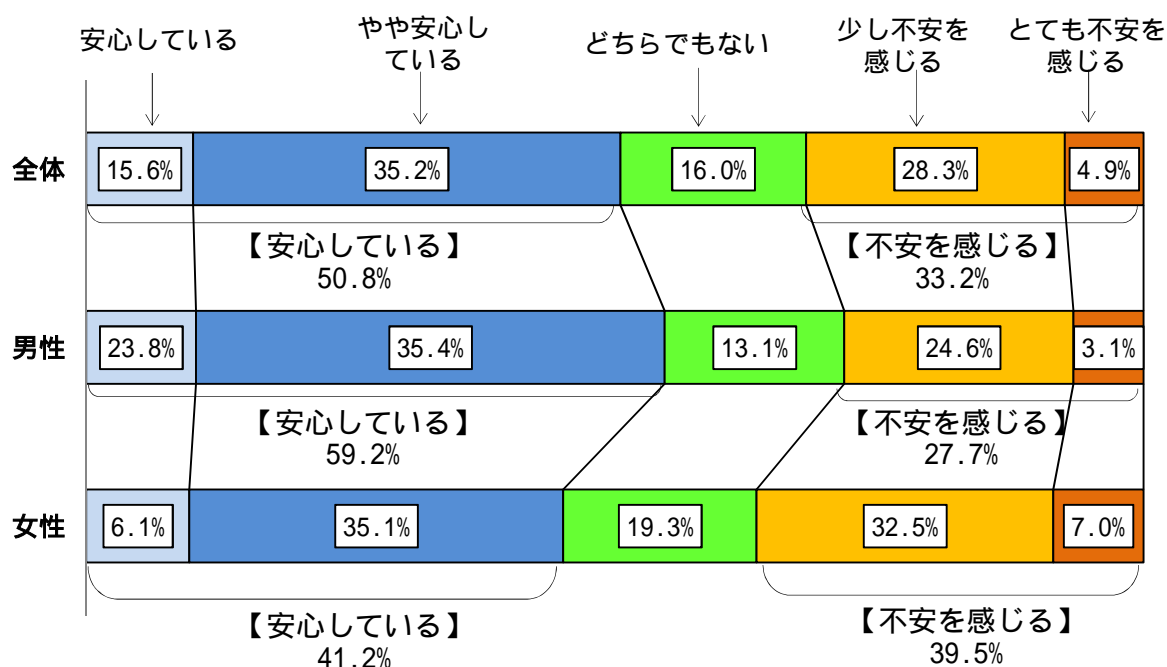
担当課：茨城県生活衛生課食の安全対策室

電話：029 - 301 - 3961

E-mail: seiei4@pref.ibaraki.lg.jp

2 調査結果

【問1】あなたは、食の安全について、どのように感じていますか。次の中から1つだけ選んでください。(n = 244)



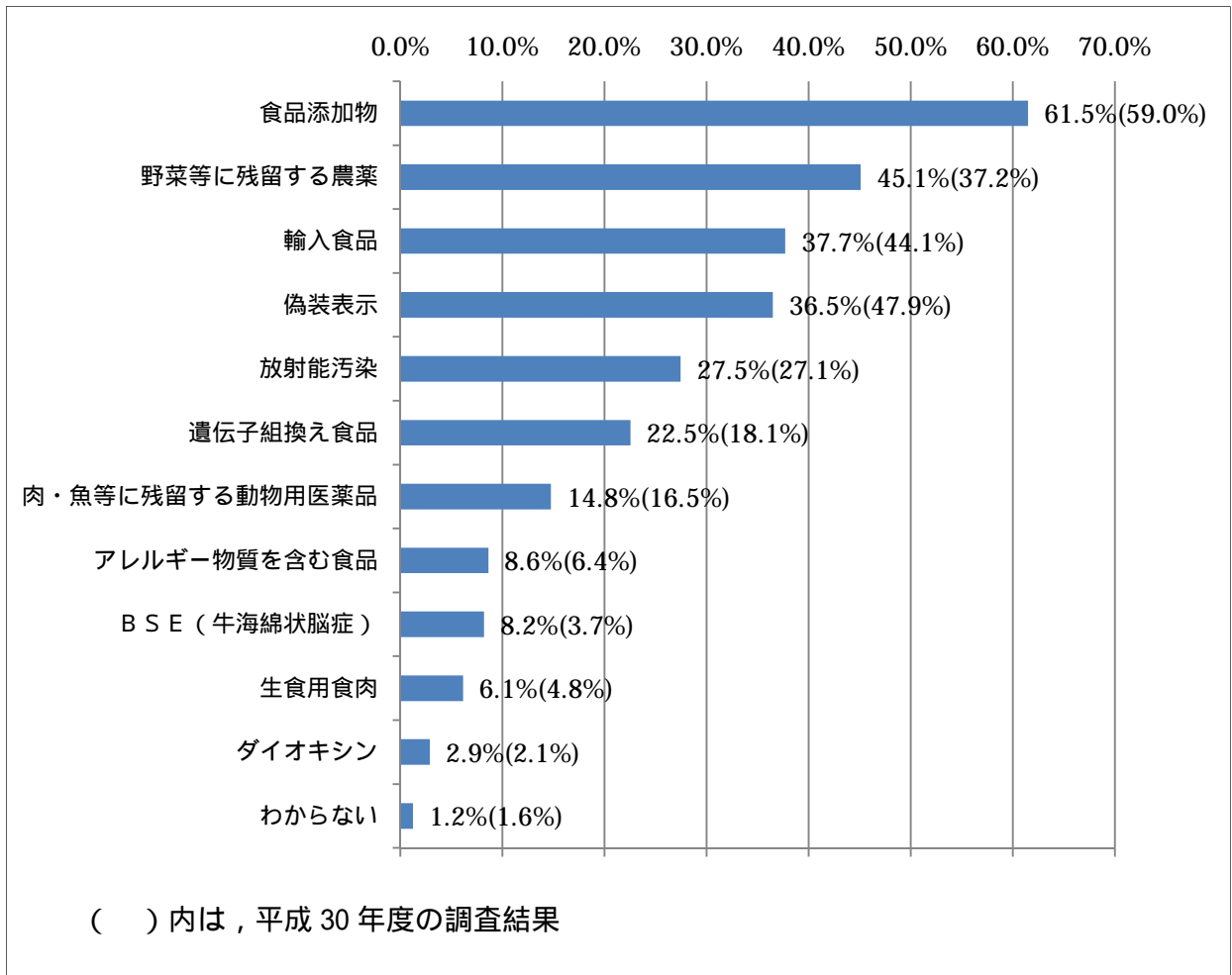
食の安全に関して、「安心している」(15.6%)と「やや安心している」(35.2%)を合わせた【安心している】は50.8%と約5割であった。

一方、「少し不安を感じる」(28.3%)と「とても不安を感じる」(4.9%)を合わせた【不安を感じる】は33.2%と約3割であった。なお、「どちらでもない」と回答したのは16.0%だった。

性別で比較すると、女性で【安心している】割合(41.2%)が、男性(59.2%)より18ポイント低かった。

前回調査(平成30年度)と比較して大きな増減はなかった。

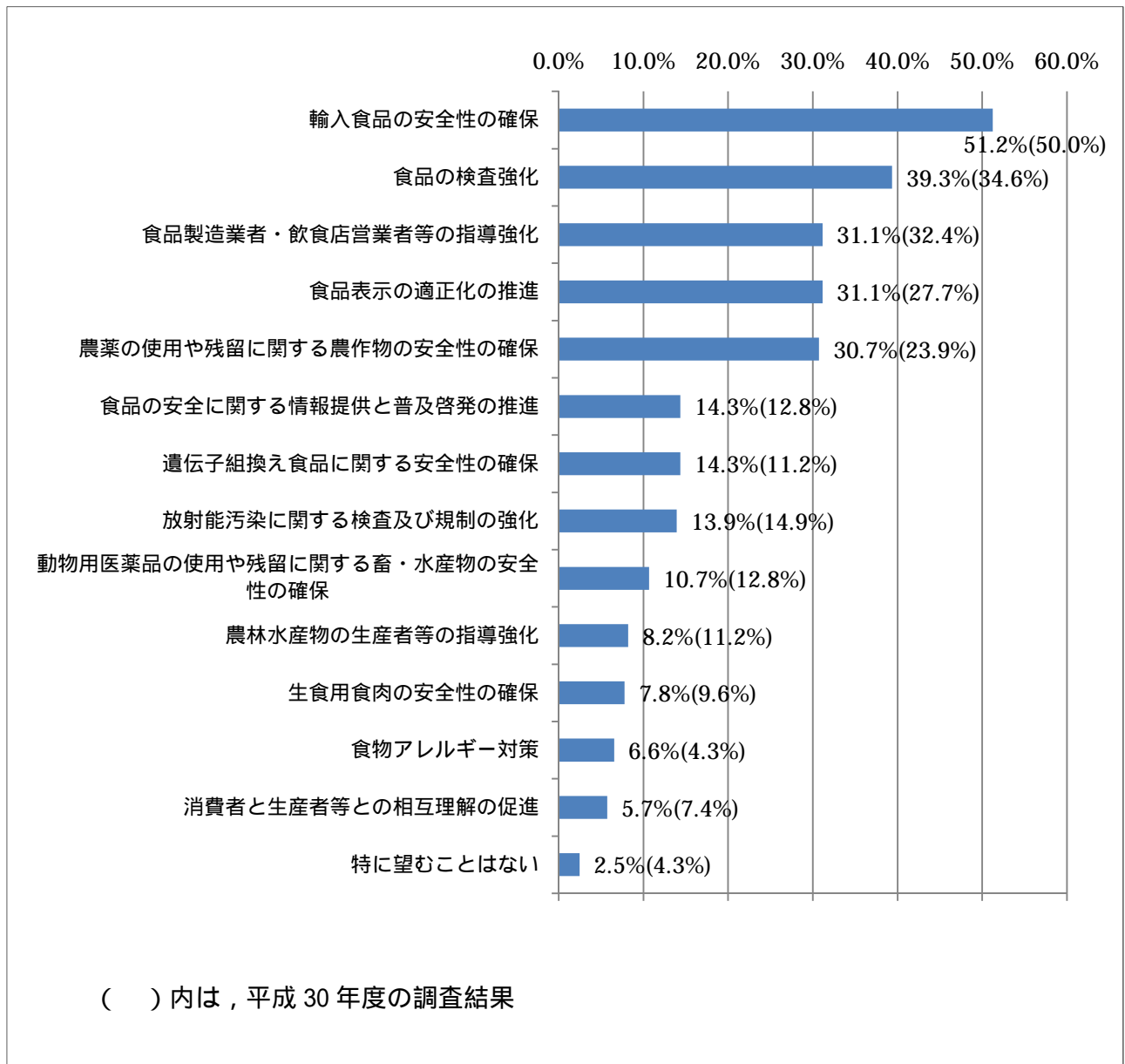
【問2】あなたは、食の安全性の観点から、関心があるものについて、次の中から、あてはまるものを選んでください。(最大3つまで)(n = 244)



食の安全に関して、関心のある項目を聞いたところ、「食品添加物」(61.5%)が最も高く、次いで野菜等に残留する農薬(45.1%)、輸入食品(37.7%)の順であった。前回調査(平成30年度)と比較して大きな増減がなかった。

その他の内容としては、「海洋プラスチックごみ」、「給食」などであった。

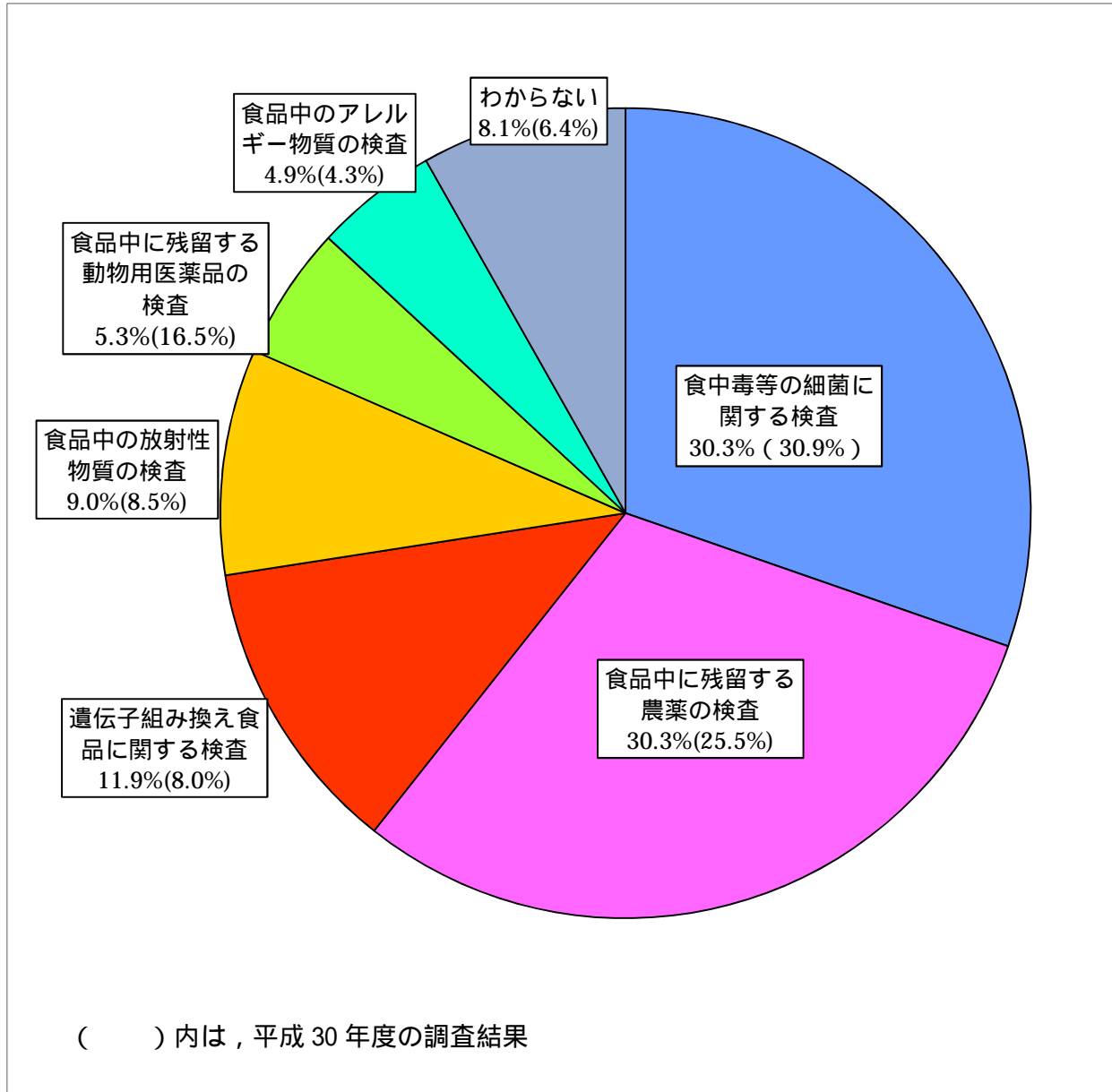
【問3】あなたは、県に対して、食の安全への対策として主にどのようなことを望みますか。
次の中から、あてはまるものを選んでください。(最大3つまで)(n = 244)



県に望む食の安全対策としては、「輸入食品の安全性の確保」(51.2%)が最も高く、次いで「食品の検査強化」(39.3%)、「食品製造業者・飲食店業者等の指導強化」(31.1%)と「食品表示の適正化の推進」(31.1%)の順であった。前回調査(平成30年度)と比較して大きな増減はなかった。

その他の内容としては、「生産環境・状況の確認」、「食中毒対策」などの意見があった。

【問4】本県では，食品衛生監視指導計画に基づき，食品の抜き取り検査を年間1,300検体実施しております。あなたは，県に対して，食品に関するどのような検査項目を特に強化してほしいですか。次の中から，あてはまるものを1つだけ選んでください。
(n = 244)



県に望む食の安全対策の検査強化の項目としては，「食中毒等の細菌に関する検査」(30.3%)と「食品中に残留する農薬の検査」(30.3%)が最も多く，次いで「遺伝子組み換え食品に関する検査」(11.9%)となった。

昨年度の結果と比較すると，「食品中に残留する農薬の検査」が約5ポイント増加，「遺伝子組み換え食品に関する検査」が約4ポイント増加，「食品中に残留する動物用医薬品の検査」が約11ポイント減少した。